



耳鳴り、めまい、聴覚過敏は  
線維筋痛症や慢性広範痛症の一  
症状かもしれない

戸田克広

耳鳴り、めまい、聴覚過敏は線維筋痛症や慢性広範痛症の一症状かもしれない

〒738-0060

広島県廿日市市陽光台5丁目12番

廿日市記念病院リハビリテーション科

戸田克広（とだかつひろ）

キーワード：耳鳴り（tinnitus）、めまい（vertigo）、聴覚過敏（hyperacusia）、線維筋痛症（fibromyalgia）、慢性広範痛症（chronic widespread pain）

線維筋痛症およびその不完全型

線維筋痛症（fibromyalgia: FM）や慢性広範痛症（chronic widespread pain: CWP）と言われる慢性痛がある。身体5か所（右半身・左半身・腰を含まない上半身・腰を含む下半身・体幹部）に3か月以上の痛みがあり、18か所の圧痛点のうち11か所以上に圧痛があれば、いかなる疾患が合併していてもFMと診断される[1]。身体5か所に3か月以上の痛みがあるが、圧痛点が10以下であり他の疾患で症状を説明できない場合が狭義のCWPである[2]。広義のCWPはFMを含む。CWPの診断基準を満たさないが肩こりのみや慢性腰痛症のみより痛みの範囲が広い場合が不全型CWPである。FMの有病率は約2%[3]であるが、その不全型であるCWPの有病率はFMを含めると約10%と報告されている[4]。不全型CWPである慢性局所痛症（chronic regional pain: CRP）の有病率はCWPの有病率の1-2倍である[3, 5-6]。日本以外の先進国や少なくない非先進国では常識であるFMがやっと日本に輸入されつつある状態であり、CWPやCRPは未だにほとんど知られていない。CWPやCRPに正式の日本語訳はなく、筆者が慢性広範痛症と個人的に翻訳して使用している状態である。FM、CWP、CRPの原因は不明であるが、脳機能の何らかの障害であることが定説になっている[7]。

線維筋痛症およびその不完全型患者は耳鼻科症状を合併する

FM、CWP、CRPは痛み、睡眠障害、疲労、認知機能障害以外にも様々な症状を

呈する。耳鳴り、めまい、聴覚過敏などを引き起こすこともある[8]。筆者の経験ではFM、CWP、CRP患者が耳鳴りを訴える場合には程度に差はあるものの頭痛を合併することが多い。筆者は耳鼻咽喉科医ではなく、FMなどの慢性痛を専門にしている。そのため、耳鳴り、めまい、聴覚過敏のみを訴える患者を診察することはないが、これらの症状を合併したFM、CWP、CRP患者をしばしば診察している。耳鳴り、めまい、聴覚過敏が強い場合には耳鼻咽喉科に紹介して、耳鼻咽喉科領域の疾患を否定あるいは同定している。FM、CWP、CRP患者が耳鳴り、めまい、聴覚過敏を訴えて耳鼻咽喉科を受診したが異常なしと診断されることは珍しくない。無効な治療を長期間受けている患者もいる。

### 線維筋痛症患者の痛みが軽減すると耳鼻科症状も軽減する

世界ではCWPに対しては通常FMと同じ治療が行われており[9]、CWPやCRPに対してFMと同じ治療を行えばFM以上の治療成績を得ることができる[10]。つまり、治療の点ではFM、CWP、CRPを区別する意義はない。FM、CWP、CRPにFMの治療を行い痛みが軽減すると、通常は耳鳴り、めまい、聴覚過敏の症状が軽減する。

### 線維筋痛症を疑おう

残念ながら、日本において耳鼻咽喉科はFMやCWPの導入が遅れている診療科の一つである。広範な痛みを訴える患者が耳鳴り、めまい、聴覚過敏を訴えて耳鼻咽喉科を受診した場合には、FM、CWP、CRPの可能性を念頭におくことが必要である。FM、CWP、CRPの可能性がある場合には専門の医療機関に紹介することが望ましい。

### 耳鼻咽喉科的検査や治療が優先

線維筋痛症やその不完全型のCWPやCRPの場合には線維筋痛症の治療が適用である。耳鳴り、めまい、聴覚過敏に対してはまずは耳鼻咽喉科的な検査、耳鼻咽喉科的な治療が優先である。耳鼻咽喉科的な検査で異常がない場合や、耳鼻咽喉科的な治療が無効な場合には治療の選択肢の一つとして線維筋痛症の治療を試してもよいと考えている。

### 線維筋痛症の治療による副作用

ただし、FMの治療薬は頻繁に眠気やめまいの副作用を引き起こす。そのため、めまいが悪化する危険性があることには留意すべきである。

## 引用文献

- 1) Wolfe F, Smythe HA, Yunus MB, Bennett RM, Bombardier C, Goldenberg DL, Tugwell P, Campbell SM, Abeles M, Clark P, Fam AG, Farber SJ, Fiechtner JJ, Franklin CR, Gatter RA, Hamaty D, Lessard J, Lichtbroun AS, Masi AT, McCain GA, Reynolds J, Romano TJ, Russell IJ, Sheon RP: The American College of Rheumatology 1990 Criteria for the Classification of Fibromyalgia. Report of the Multicenter Criteria Committee. *Arthritis Rheum.* 33: 160-172, 1990.
- 2) 戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.
- 3) Toda K: The prevalence of fibromyalgia in Japanese workers. *Scand J Rheumatol.* 36: 140-144, 2007.
- 4) McBeth J, Jones K: Epidemiology of chronic musculoskeletal pain. *Best Pract Res Clin Rheumatol.* 21: 403-425, 2007.
- 5) Forseth KO, Forre O, Gran JT: A 5.5 year prospective study of self-reported musculoskeletal pain and of fibromyalgia in a female population: significance and natural history. *Clin Rheumatol.* 18: 114-121, 1999.
- 6) Bergman S, Herrstrom P, Jacobsson LT, Petersson IF: Chronic widespread pain: a three year followup of pain distribution and risk factors. *J Rheumatol.* 29: 818-825, 2002.
- 7) Kasper S: The psychiatrist confronted with a fibromyalgia patient. *Hum Psychopharmacol.* 24 Suppl 1: S25-30, 2009.
- 8) Cassisi G, Sarzi-Puttini P, Alciati A, Casale R, Bazzichi L, Carignola R, Gracely RH, Salaffi F, Marinangeli F, Torta R, Giamberardino MA, Buskila D, Spath M, Cazzola M, Di Franco M, Biasi G, Stisi S, Altomonte L, Arioli G, Leardini G, Gorla R, Marsico A, Ceccherelli F, Atzeni F: Symptoms and signs in fibromyalgia syndrome. *Reumatismo.* 60 Suppl 1: 15-24, 2008.
- 9) Toda K: Treatment of chronic widespread pain is similar to treatment of fibromyalgia throughout the world. *J Musculoskelet Pain.* 18: 317-318, 2010.
- 10) 戸田克広: 線維筋痛症と chronic widespread pain (CWP) ・不全型CWPの治療成績の比較. *臨整外.* 44: 1203-1207, 2009.

## 著者紹介

---

### 著者紹介

戸田克広（とだかつひろ）

1985年新潟大学医学部医学科卒業。元整形外科医。2001年から2004年までアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）に勤務した際、線維筋痛症に出会う。帰国後、線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や原因不明の痛みの治療を専門にしている。2007年から廿日市記念病院リハビリテーション科（自称慢性痛科）勤務。『線維筋痛症がわかる本』（主婦の友社）を2010年に出版。電子書籍『抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、抗不安薬の罣、日本医学の闇—』<http://p.booklog.jp/book/62140>を2012年に出版。ブログにて線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や痛みの情報を発信している。実名でツイッターをしている。

ツイッター：@KatsuhikoTodaMD

実名でツイッターをしています。キーワードに「線維筋痛症」と入れればすぐに私のつぶやきが出てきます。痛みや抗不安薬に関する問題であれば遠慮なく質問して下さい。私ができる範囲でお答えいたします。

電子書籍：抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、精神安定剤の罣、日本医学の闇—<http://p.booklog.jp/book/62140>

日本医学の悪しき習慣である抗不安薬の使用方法に対する内部告発の書籍です。276の引用文献をつけています。2012年の時点では抗不安薬による常用量依存に関して最も詳しい日本語医学書です。医学書ですが、一般の方が理解できる内容になっています。

・戸田克広:「正しい線維筋痛症の知識」の普及を目指して!—まず知ろう診療のポイント—. CareNet 2011

<http://www.carenet.com/conference/qa/autoimmune/mt110927/index.html>

薬の優先順位など、私が行っている線維筋痛症の最新の治療方法を記載しています。

・戸田克広: 線維筋痛症の基本. CareNet 2012

<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>

さらに最新の情報を記載しています。

ブログ：[腰痛、肩こりから慢性広範痛症、線維筋痛症へー中枢性過敏症候群ー戸田克広](http://fibro.exblog.jp/) <http://fibro.exblog.jp/>

線維筋痛症を中心にした中枢性過敏症候群や抗不安薬による常用量依存などに関する最新の英語論文の翻訳や、痛みに関する私の意見を記載しています。

線維筋痛症に関する情報

戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.

医学書ではない一般書ですが、引用文献を400以上つけており、医師が読むに耐える一般書です。

## 電子書籍

---

通常の書籍のみならず電子書籍もあります。

電子書籍（アップル版、アンドロイド版、パソコン版）

<http://bukure.shufunotomo.co.jp/digital/?p=10451>

通常の書籍、電子書籍（kindle版）

[http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm\\_kin\\_title\\_0](http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm_kin_title_0)

電子書籍（XPDF形式）

<http://books.livedoor.com/item/4801844>

耳鳴り、めまい、聴覚過敏は線維筋痛症や慢性広範痛症の一症状かもしれない

著者：戸田克広

2013年1月29日 第1版第1刷発行

<http://p.booklog.jp/book/65177>

著者：戸田克広

発行者：吉田健吾

発行所：株式会社ブックログ

〒150-8512東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー

<http://booklog.co.jp>



耳鳴り、めまい、聴覚過敏は線維筋痛症や慢性広範痛症の一症状かもしれない

<http://p.booklog.jp/book/65177>

著者：戸田克広

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/katsuhitodamd/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/65177>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/65177>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ